

おれんじニュース

No261

2011年12月号



10月28日 木曾の御岳山

★集会・委員会のお知らせ★		★4月から会合の曜日は水曜日です★		
	12月	2012/1月	時間	場所
運営委員会	7日(水)	11日(水)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	9日(金)山行時	6日(金)	13:30~15:30	
全体集会	21日(水)	25日(水)	19:00~22:00	

..... 山行の一步は集会参加から





古祖母山頂



障子岳へむかう展望岩



尾平への下り道



塚原温泉に入ってさわやかに出てきたN氏



奈良井宿



妻籠宿 民宿こおしんづか



奈良井宿 御宿伊勢屋

落景踏む丸き馬籠の石畳 まろき
 炉語りの木曾節に酔ふ妻籠宿 やど
 細格子続く奈良井宿や柿日和 ならい
 菊の香や翁手挽きの小六櫛
 栗きんとん買ふて木曾との別れかな
 山口いづ子



12月山行計画

部	山行部	ひまわり山行部	技術研修部		
月・日	12月4日(日)	9日(金)	10日(土)	17日(土)	23日(金)
山名(行事)	平尾台 (大平山 587m・ 貫山 711m)	小浜～唐比	元越山 (582m)	鬼ノ鼻山(434.6m) 聖岳(416m) 多久聖廟	岸岳(320m) (鬼子岳)
地 図	苅田		佐伯・畑野浦	多久・武雄・牛津	徳須恵
集合時間	諫早駅前 7:00 西諫早駅 7:10	諫早駅ターミナル 発 8:50	諫早駅前 6:00 西諫早駅 6:10	西諫早駅 8:30	西諫早駅 8:30
難 易 度	初心者	初心者	初心者	初心者	初心者
帰着時間	18:00頃	17:00	18:00頃	17:00	17:00
歩行時間	4.0h	4.5h	3.0h	4.0h	4.0h
交通手段	マイクロバス	バス	マイクロバス	マイカー	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	唐比温泉	有り	有り	有り
参加費	5000円	交通費のみ	5000円	2000円	2000円
申込期限	定員になり次第	随時	定員になり次第	随時	随時
集 約	田中	中村	佐原	佐原	佐原
備 考	カルスト台地の スキがみごと です。	小浜までバスで 行き唐比まで歩 きます。	日本屈指の展望 峰です。国木田 独歩が愛した山	山頂には鬼の頭 の展望台がある らしい。	姫落としの岩 や見どころ満 載
感想文提出	12/14	12/19	12/20	12/27	1/5

技術研修部より

12月24日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅 9:30 集合)

1月28日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅 9:30 集合)



忘年会のお知らせ(江崎さんも参加されますよ)

- 日時 12月9日(金)6時半～
- 場所 太白楼(23-1098)水月楼の隣
- 会費 3000円(男女とも) 申込み中村まで



1月山行計画

部	技術研修部	山行部	技術研修部	ひまわり山行部
月・日	9日(月)祝日	15日(日)	22日(日)	27日(金)
山名(行事)	土器山(佐賀県) かわらけやま (429.9m)	不動岩(388m) 熊本県山鹿市	矢護山(942m) 鞍岳(1118.6m) 熊本県大津町	稲佐山(332m) 金比羅山(366m)
地図	広滝	八方ヶ岳	鞍岳	長崎西北、東北部
集合時間	西諫早駅 8:30	諫早駅前 7:00 西諫早駅 7:10	諫早駅前 6:00 西諫早駅 6:10	JR諫早駅発 8:46にて
難易度	要技術	楽にのぼれます。	矢護山コースと 縦走コース有り	初心者向き
帰着時間	17:30	17:00	18:00	17:30
歩行時間	3.5h	2h	3.5h~7h	4h~5h
交通手段	マイカー	マイクロバス	マイクロバス	公共交通機関
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	有り	天然温泉湯香里	有り	
参加費	2500円	4000円	4000円	交通費のみ
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第	随時
集約	佐原	田中	佐原	中村
備考	立願、祈禱のため土器を上宮の御神体岩に納める風習から土器山(かわらけやま)という。	山鹿市北東部の岩峰郡、前不動、中不動、後不動を周回	矢護山は動物の足跡をレリーフにした道標が有り楽しめる山。	地元の山をしっかり歩きます。お諏訪さんで初詣でも出来ますよ。
感想文提出	1/20	1/23	2/4	2/8

おすすめの1冊

八ヶ岳、南アルプス、北アルプスに始まって奥多摩、奥秩父等の山小屋の主人の炉端での語りを本にまとめてあります。この本を読んでなるほどあの小屋はこうやってできたのか・・等思いにふけるもよし。また登った時たずねてみるもよし。



10月/11月の山行報



10月14日(金)～16日(日)

古祖母山(1633m)、障子岳(1709m)

<参加者> 中須賀(CL)、田中(静)(SL)、川原、久保、松園、山下、下釜

<行程> 10/14(金) 西諫早 15:55～島原外港 17:30～熊本港 18:20～高千穂ユース
ホテル着 21:30

10/15(土) ホテル発 7:25～登山口着 8:20～尾平越着 9:10～古祖母 11:07
～障子岳 12:45～古祖母 13:55～尾平越 15:25～登山口 16:05
～ホテル着 17:15

10/16(日) ホテル発 9:00～天岩戸神社 9:20～阿蘇休暇村 12:00～昼食(と
ろろ亭) 12:35～白川湧水散策 13:00～熊本港着 14:40～島原外
港 15:30～諫早着 16:40

<感想> 金曜日からの出発と変更になり、7名の小人数の参加だったので、今回も久保さんのマイカーです。フェリーで各自夕食の弁当を食べる。オーシャンアローはゆっくり出来た。

暗くなった熊本港から南阿蘇経由で高千穂のユースホテルへ。21:20着。遅かったが、お風呂に入り、まずは喉を潤す。翌日もあることなので女性陣は早めに部屋に戻り寝ることに。男性陣は酒豪3兄弟まだまだ続く。いつものことながら感心する。

6:00起床。朝食後7:20ホテル発。登山口まで1時間弱。尾平トンネル口の駐車場に車を止めて出発。樹林のなか、ゆるやかな登りと短い急登のあと、尾平越着。祖母縦走路の中央付近に位置している。左に進路をとる。緩やかな尾根道から軽く小ピークを超えると稜線歩きになる。4等三角点コシキ岩<1230.5M>紅葉



展望所からの大岩。ゴリラの顔が見える

はボチボチのなか進むと、やがて長い登り坂にかかる。両脇にはスズタケが茂り景色も見えない。アップダウンを混じえ高度を上げていく。

岩段差、急登が断続的にある。巨岩を左から回り込み岩の隙間にかげられた高い梯子を登り、ロープやスズタケにつかまりながら登る。11時5分古祖母着。断崖の岩に立てば展望がいい。時折意地悪くガスで視界がきかなくなる。

ここで早めの昼食。朝食が美味しく、特にごはんが美味しかったので、お腹いっぱい食べたため空腹感があまりなく軽く食べた。天候が

小雨模様だったので、当初の障子岳はどうしようかと話が出たが、全員一致で登りたいとなった。縦走路はスズタケの中を下る。緩やかな下りが長く続く。100mほど下ると上り坂にかかり「第一展望所」の標識が現れ行ってみようと右にコースをたどる。1時間程で障子岳着。全く視界がきかないので集合写真撮影後下山。復路は古祖母への登り返し。尾平越えより帰りは南口へ下ろうと話していたが急斜面であり足場もよくないかもというので登っ



雨の障子岳頂上

てきた道を下る。

16:00 登山口着。ホテルに17:15着。夕食後反省会(?) 夕食も全て手作りで美味しかった。

翌日は観光のみ。まずは天岩戸神社に参拝。1時間程見学後、阿蘇休暇村で入浴。山に登っていないので汗もかいてないからと散策組と入浴組の二組に分かれて行動。隣の「とろろ亭」で昼食。次は白川湧水散策。フェリーの時間の都合があるので美味しい水を飲んで20分程で切り上げ帰

路へ。諫早16:40着。

今回トップを任され内心不安でしたが、二番手の山下さんのサポートのおかげで無事終わりました。

古祖母、障子岳と縦走出来てよかったです。楽しい山行ありがとうございました。

(田中 記)

10月21日 (金)

九千部・石谷山

<参加者> 福岡、佐原、川内、中村、金丸、林、松尾(香)、森、林田、兵庫、田中(紘)、
外2 計13名

<行程> 諫早駅7:00発—西諫早駅発7:40発—石谷山登山口着10:15一同所発登山開始
10:30—頂上の下600mの東屋着11:30(ここで休憩)雨が酷くなり屋根の下で昼食(12:00
~12:45)昼食後、頂上ハント組10名出発し往復1時間、残留組と合流、13:45下山開始~
登山口着15:10、バスにて移動、入浴(15:40~16:20) 諫早着18:00

<感想>

予報通り朝から雨。もしかして「温泉旅行」になるかもと淡い期待を抱いて集合、出発。ちょっとした行き違いがあり、西諫早駅出発が30分程遅れる。さらに高来町バス停で一人ピックアップしたので、高速を利用せず、そのまま鹿島市を過ぎ、佐賀からようやく高速に入る。コース取りは運転手の井上さんにお任せ。また、今日のリーダーは、福岡さんをお願いし、お天気が良くないので、縦走はせず、石谷山のみ登ることにする。車窓からは、雨が止んだように見えたが、登山口では小雨、カッパを着るほどでもなく、ストレッチをして登り始める。

川に沿った登山道で、飛び石を伝い、右に左に流れを渡ること3回。途中、大粒の雨でカッパを着たり、暑くなって脱いだり・・・歩き始めて1時間、格好な東屋があり一休み、雨が酷くなり、その屋根の下で、昼食にする。時間的にもちょうど12時。頂上まではあとちょっとらしいが、山頂はもともと見晴らしが利かないとのこと。この空模様ではなおさらのこと。昼食後、希望者10名は頂上アタック。



私を含む3名は、東屋に残り荷物番をして待つこと小1時間。全員合流して同じ道を下山した。

その朝、私は慌しく家を飛び出したら、眼鏡を掛け忘れてしまったので、足元がおぼつかない。無理をせず、怪我をしないように心して歩いた。携帯電話、ライト、傘も忘れていた。年は取りたくないですね。皆様も忘れ物にはお気をつけ遊ばせ！！（田中紘子記）

10月25(火)～30日(日)

中山道 木曾路を歩く

<参加者> 川原、松尾(敏)、兵庫、佐原、本秀、林、中村、山口、下釜、森、鎗水、水江(外)、高森(外)、大村(外) 計(14名)

<行程> 10/25 5:00 西諫早駅発—
 10/26 7:00 落合宿—9:15 馬籠宿—12:40 妻籠宿(民宿こおしんづか)
 10/27 8:00 妻籠宿発—11:45 野尻宿—17:00 上松宿(民宿さわぐち)
 10/28 8:00 上松宿発—9:40 御岳ロープウェイ—13:50 宮の越宿—16:00 鳥居峠—
 17:20 奈良井宿(御宿伊勢屋)
 10/29 8:00 奈良井宿発—10:10 木曾平沢—11:00 贅川宿—11:00 中津川 IC—
 10/30 5:30 西諫早駅着

<感想>

中山道の一部である木曾路については、せいぜい木曾節と御嶽山、時代劇に出てくる股旅ものと水戸黄門様が思い当たる程度である。

島崎藤村と「夜明け前」、木曾義仲と巴御前くらいの言葉だけは知っていたが、その中身については文学・歴史ともに疎く、木曾路との関連は全く知らなかった。



御嶽山を眺め、文人や故事の史跡を訪ねて知識を増す。多くの旅人が通った木曾路、江戸

時代にタイムスリップしたような古い家並みの宿場を歩いて、昔の旅人の気分も味わう。

ただ妻籠宿の旅籠で、夕食後こじんまりした檜風呂に一人ゆっくり入り、旅の疲れを癒している間に、宿の主人が歌う木曾節を聞き漏らしたのは残念であった。

しかし誰の作かは分からぬが、この宿の手洗いに「泣いてもいちにち 怒ってもいちにち 悩んでもいちにち おんなじいちにちなら 笑っていちにち それがきつとしあわせの一番の近道」という詩がかかっていた。残りの人生をおくる上でおいに参考にしようと思っている。 (兵庫 記)

今回 5泊6日(内車中泊2日)の木曾路の旅、上天気恵まれ最高でした。

計画をお世話下さった、川原さん、鎗水さんに心から感謝いたします。木曾駒ヶ岳を右手に見ながら往時を偲んで歴史の道を満喫出来たこと。義仲館、御岳ロープウェイ山頂から近くに御岳山、遠くに槍ヶ岳、奥穂高岳、前穂高岳を見聞でき楽しい旅でした。 (松尾敏 記)



「是より北木曾路」の碑を後に落合宿より歩き始める。白壁の土蔵、千本格子の家、石畳の坂、古びた旅籠、煤けた囲炉裏、それを支え合い守り続ける家族の姿に心打たれました。

芭蕉や子規の句碑、木曾漆器、伝統工芸品の数々等味わい深い品が数多くありました。

木曾駒ヶ岳の雄大な姿、御嶽山にロープウェイで登り見た北アルプス、南アルプスの峰々、自然も満喫させていただきました。

素晴らしい思い出深い旅を有難うございました。お疲れさまでした。 (本秀 記)

中山道福島宿をちょっぴり見学して

平成23年10月28日午前8時、木曾郡上松町 民宿「さわぐち」の玄関前で集合写真を何枚か撮りマイクロバスに乗り込んだ。私は我が家の事情で一足先に帰らなければならない。

一行の皆さんとドライバーの井上さんのご厚意で木曾福島駅迄、一緒に帰る事になった大村さんと二人を送っていただき、先を急ぐ一行と別れる。

帰りの電車の発車迄時間が少々あったので駅の構内の案内所で中山道の道順をたずねると、丁寧に教えて下さる。

木曾福島駅上の段の高台にあった広大な“福島関所跡”を見学し、その当時の重要役所としての面影をその広さが物がたっていると思われた。



街並みも白壁の土蔵作りが多く、小さい乍らもなまこ壁の土蔵作りの家に入ってみたら、その家はお菓子屋さんでした。念願の「栗きんとん」が有ったので買った。

駅に戻り、お茶飲みながらさっきの「栗きんとん」を口に入れると、何と上品な甘さでおいしい事、値段に見合う丈の事はあったと

思う。28日の朝、一行の皆さんと別れてから私一人で帰れるかしらと心細く思ってましたが、大村さんと久し振りにお会い出来、彼女も早めに帰らなければならない事情で名古屋迄一緒にと分ると、私は勇気百倍でした。

名古屋で博多行の新幹線に乗車する迄大村さんはホーム迄来て下さり、二人席の自由席も空席が多く空いていて本当にラッキーでした。博多に着いたら我が家に帰ったも同然で、夕方6時半にはポツポツ降り出した諫早駅に無事着きました。心残りは皆さんが見て来られた御嶽山を見られなかった事です。それは私の事情で仕方がない事です。皆さんお疲れさまでした、お世話になりました。(佐原 記)

10月26日(水)囲炉裏のある妻籠の民宿「こおしんづか」にて夕食。囲炉裏を囲んで本日の反省会(?)を兼ねたミーティングの折、帰宅されたご主人の『正調木曾節』ならぬ『木曾節』を澄んだ高い大きな声で唄っていただく。地元の音調であるとの旨。

食事は馬刺始め、手作り豆腐に〇〇味噌がかけてある等、すべて美味で称賛の声が上がる。

10月27日(木)上松宿の民宿「さわぐち」では大きな熊の剥製が出迎えてくれる。

近くに鉱泉があるとのことで、3名が宿の車で出かけた。当日は休みだったらしいが快く迎えていただき、その上料金も割引してもらおう。

貸し切りの「赤い湯」、特大樽に白い湯が満たされた露天風呂の中でゆっくり出来、昔話に花が咲く。

10月28日(金)この日は新月にあたり、また山中高い所にあるので空気が澄んで未明の空は満天の星、手洗いに下りてきた方々を誘い見上げる。宝石を散りばめたような中に北斗七星、金星、オリオン座等々が美しく輝き、手が届きそうである。感動の声が上がる。

お陰さまで、とても楽しい時が過ごせて、良い思い出ができました。(中村 記)



木曾路の旅



妻籠宿への石畳

文化が守られている感じがします。

木曾路は、はじめて訪れる所なのに木曾路という言葉の響きに以前訪ねた事のあるような、なつかしさと親しみとそしてあこがれを感じていた。

そのあこがれをのせて二十五日夕方、五時、出発。

木曾路の街なみは軒が低く、格子窓である。古民家がちゃんと保護され、手入れされていた。素朴でひなびた感じは訪れる人をホッとさせる。広告なども無く日本の文化

山に囲まれているせいか、水量が多く澄んでいて道路の片側にはところどころに池が作られ鯉がおよぎ、築山がつくられて道行く人を楽しませてくれる。

木曾は檜が多くうるしが塗られた格調高い木工製品が売られているが高価でとても手がでなかった。木曾の御岳山にはロープウェイで登った。天気が良く遠くに北アルプス、中央アルプスなど一望にのぞめてすばらしい景観だった。

山路は所々に熊よけの鐘が作られててカーンカーンと鳴らして歩く。

百年をこす歴史をもつ宿でいろりを囲んで宿の主人が歌った木曾節はとてもよかった。

途中、柿が多くすずなりでした。

お世話下さった方々、いろいろ大変だったと思います。道路を渡る時も安全を確認してください、おかげで楽しい思い出で深い旅ができました。ありがとうございました。（林 記）

木曾路で道に迷った時の事

私の後を松尾さんと中村さんが来ていたのですが、大分はなれ、松尾さんが道を携帯で聞かれた時にまっすぐと言えばよかったのに右にと言ってしまいました。それで松尾さんと中村さんが道を間違えました。駒ヶ岳を眺めながら待っていたが、迎えに行くはめになりました。その後自分達が同じような失敗に会いました。でも楽しい旅でした。（下釜 記）

木曾路を訪ねて

十年一昔といいますが、私には二昔たった今も折にふれオレンジの山行がついこの間の様に思われます。そんな折参加させていただいたこの旅は、皆様の温かい心に包まれて思い出深い旅でした。

黒ずんだ柱にとろとろ燃える炉端の家は子供の頃、母に連れられて行ったおばあちゃんの家と同じ臭いでした。

食後に囲炉裏を囲みながら本場の木曾節に耳を傾け、水しぶきと共に回る水車の音を聞きながらどっぷり浸かるお風呂。

ピンと張りつめた朝の空気。もやに気振る山の峰々、麓には急勾配の屋根の家々が点在し、近くは色づき始めた木々の中にハゼの木が一足先に赤く萌えています。

人影のまばらなどかな部落にあって私達を見かけた人が、またこの道に戻るであろうと、仕事の手を休めて収穫した柿を籠に入れて待っておられたとの事、両手に持ちきれない程頂きました。旅人をもてなす暖かい心、広い心にセチ辛い毎日に明け暮れしている私には、失った大切なものを教えられた旅でもありました。（大村 記）



全行程を歩くのは無理かな？などと思いながら申し込みました。でもけっこうバス移動もあり無理なく歩くことができた。料理がとてもおいしく1日目に泊まった民宿こおしんづかの地元のものを使った手間隙かけた数々の料理はすばらしかった。近くなら又行きたいな。

寢覚の床では浦島太郎伝説があり釣竿や亀まで展示してあるのを見てこんな山の中だと笑ってしまった。

御岳さんにもロープウェイで7合目まで登ることが出来、天気が良かったので北アルプス・中央アルプス・南アルプスが一望できた。登ることは出来ないかもしれないが見るだけでもすばらしかった。



又、お六ぐしを作っている所を見せてもらいお土産に買った人も何人かいたので1ヶ月後には皆髪がフサフサになっているかな……

(森寿 記)

中山道を歩くと言う楽しいプランで一番の心配は天候でしたが、私達に味方してくれて4日間晴天、本当にラッキーでした。

私の心に残ったルートは鳥居峠から奈良井宿への道でした。紅葉も美しく、昔の人もこんな幅を歩いたのだなあと思いました。機会があればまた別の街道を歩いてみたいと思った旅でした。色々お世話になりました。有難うございました。

(高森 記)

昔の旅人よろしく、山沿いの石畳を歩き、木曾川沿いから美しい中央アルプスを眺め、名所めぐり、古民家の囲炉裏ばたでくつろぐ。

中山道木曾路は良く保存整備されているが、日程の都合や歩くほどの事はない区間もあり、全行程約100kmのうち歩いたのは約40kmです。

しかし、皆さん郷愁に誘われるままに良く歩き、良く買物をし、山行と違った満足感が味わえたようです。また次回の企画をお楽しみに。

(旅人案内人)

11月4日(金)

烏帽子岳 鳴鼓岳

(参加者) 小山、中村、松尾(敏)、坂本、佐原、近藤(外) (6名)

(行程) 諫早駅 8:20—JR道の尾駅 9:10—上床バス停 9:45—登山口 10:15—烏帽子岳 11:30—なずみ広場 12:00 昼食、出発 13:00 下山—光風台方面へ下りる—光風台バス停—14:20 バス乗車—諫早へ

(感想) 本日は少し曇りでは有ったが6人で元気に出発。

登山口付近でストレッチをして出発した。いきなりの急登で久しぶりの登山の私も心配したが何とかきりぬけて登って行った。

鳴鼓岳の近くで少し雨がパラついたが一時的なものですぐにやんだ。

烏帽子岳の頂上に「長崎要塞区域標」が建っていた。横の面には明治32年6月10日 建立47号と、書いてあった。

時間がすこしあったのでコンパスの勉強をした。途中の道ではイノシシが掘った跡があった。帰りは急坂で石がゴロゴロしていたがゆっくり下りて行った。皆、無事に帰れて良かった。やはりいい山です。

(坂本 三枝子記)

11月6日(日)

鶴見岳・伽藍岳

◎天候：雨～曇り～晴れ。

◎参加者：川原 (CL)、佐原 (SL)、福岡 (PL)、山下 (PSL)、鎗水 (救助)、松園 (救護)、下釜、林田、田中し、山口い、金丸(直)、林、中須賀 (感想) (13名)

(行程)

6:05 JR 西駅発ー6:55 金立トイレ休息ー7:20 同発ー 8:00 日田通過ー9:00 鶴見ロープウェイー9:30 塚原温泉ー 9:55 塚原越ー10:25 温泉着ー10:50 同発ー11:15 高速湯布院入りー12:00 高速杷木降るー12:10 一ノ瀬着陶器祭りー12:50 同発ー13:10 浮羽市船越柿園ー13:40 紅乙女・ワインー14:50 同発ー15:25 キリンビール館ー15:55 高速小郡入るー17:20 西駅前着

(感想)

予定時刻やや前に発。本日は平尾レンタカーの井上運転士。雨はなし、川登りすぎより小雨、武雄では雨やや強くなる。

本日の天候状況では予定の縦走コースは無理の地点もあり、伽藍岳だけでもとのKリーダーよりの説明。また、天候によっては鶴見岳はロープウェイでもとのこと。

本日は時間もありませんので、先日の木曾路の旅の概要報告あり(鎗水氏ほか)。日田通過の8時頃の高速の周辺はガスでおぼろに見える状態で紅葉も判然とはしない。久住周辺の山並みも見えず、仙人でもそんなガスもよう天候。

9時高速を降りて、ロープウェイ乗り場：kリーダーによる状況確認では頂上はロープウェイの周辺展望不能とのこと。まっすぐ伽藍岳登山口の塚原温泉に向かうことになる。

城島高原キャンプ場横を通り、登山口の塚原温泉に9時30分着、4年前とは見違える建物・施設の温泉場となっている。雨も降っているが、いちおう塚原越までは歩くことになる。30分ほどしか歩かないが周辺の紅葉のほどは良くない。黄色の変化はあるが赤色への変化は少なく目立たず。途中ではどーん・どーんと雷のような音も時にする。



10時前に塚原越・分岐に着く。途中から気に掛かっていたどーん・ドンという音・雷の音のようでありこれからの尾根への登りは自重したがよからうとのことで下山開始。

だれかが鹿の骨・頭部を見つけ、これを標識の上ののせて記念の全員写真としおさめる。降りかけて、先の音はどうも規則的で雷とは異なるよう・そ

うそう近くには自衛隊基地がある。どうもその音かとの結論。

10時30分に登山口の温泉に着く、雨による濡れもひどくはないが、着替えは必要・温泉に入ることにする。ここの湯は酸性やや高いとのことだが、はいつて洗顔すると目への刺激が高い。水で薄めて洗うことに、他の人にいうと気に掛かる・掛からないの両意見。同浴の地元の人らしい人にこの温泉効能はと聞くと、とくに皮膚病などによいとのこと。なるほど酸性が高いのとの関連かと納得し、自分の足の水虫にも効くかと思い、長湯とした。

あがって脱衣場の板壁に貼ってある大正11年2月とかの新聞にこの効能の宣伝等があった。「・・・の宮様がこの温泉の水をご購入」とか書いてある。また、・・・大学の先生鑑定の効能ガキなどが載っていた。

本日の登山これまでとして、Y氏推薦の「浮羽市であっているという陶器祭」に向かう。

途中の街路の周辺の紅葉の具合も黄色の変化は目立つが赤へ変化は少い。

11時すぎに高速湯布院入り、12時すぎに一ノ瀬窯着。陶器祭りの最終日とか、またJRウォーキングもあっており人通りが多い。

市は2割引とか、みなそれぞれ品定めのように。小生は昼食の場として利用させてもらったし、みなにあわせて「ぐいのみ」を一つ購入。

ついで井上運転士行きつけの浮羽市船越柿園による。

ここの園は必ず寄って柿を購入してきたところ、小生は歯の都合で熟柿を5個、普通のを5個をもいで量ってもらおうと、熟柿は無料とのこと（・・・持ち帰りに困ったが）。本日は時間たっぷりで、またまた紅乙女・ワイン工場・庭園に寄る。



酒蔵・庭園見学・説明を受け、試飲も。焼酎3～4杯で半酔い、ワイン工場蔵の見学・試飲もはじめて。ついで3時半過ぎにキリンビール館でトイレ休息。4時前に高速小郡より帰途につく。結局の所、本日は山登り骨休みの一日となる。

17時半前に全員無事にて西駅前着。みなさんお疲れさまでした。

(須賀山人 記 文中写真も)



10月15日古祖母より五ヶ所方面遠望

おれんじニュースNo261	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2011.11.23
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/



こちらが本当のカエル岩
御館山にて、探してみてください！